

ラサール・三菱地所・NIIPPO

川崎・東扇島に大型施設

ダイワコーポなど入居

ラサール不動産投資顧問（キース藤井社長、東京都千代田区）、三菱地所、NIIPPO（吉川芳和社長、中央区）は3日、共同で開発を進めていたマルチテナント（複数企業入居）型物流施設「ロジポート川崎ベイ」（川崎市川崎区）の竣工式を開いた。

首都圏の大消費地に近接

国内有数の物流施設集積地である東扇島に立地。首都高速道路湾岸線・東扇島出入口まで1.5キロと近く、首都圏各地へのアクセスに優れている。また、川崎港にも近い上、首都高湾岸線経由で各高速道路へも接続しやすい。

更に、2023年度完成予定の臨港道路東扇島水江町線にも近接。今後の一層の交通便利性向上が見込まれている。

敷地面積13万4800平方

方、鉄骨鉄筋コンクリート造り制震構造5階建てで、延べ床面積29万6700平方

ダブルランプウェイ方式を採用し、セミトレーラも通行できる幅15.5メートルの中央車



テープカットに臨むラサールの藤井社長（中央）、三菱地所の細包執行役常務（左隣）ら

路を設置。1〜4階は高床式で天井高5.5メートル、最上階の5階のみ低床式とし、天井高は6メートル以上を確保している。

テナント従業員用の休憩室、シャワー室、コインランドリー、コンビニエンスストアなどを設け、快適な就労環境となるよう配慮。トラックパス予約システムも導入し、待機時間を減らす。また、駐車スペースの空き状況をデジタル表示し、ドライバーの労働環境改善につなげる。

館内には24時間365日稼働の防災センターを備えるとともに、72時間稼働の非常用発電機を装備。テナントのBCP（事業継続計画）に対応する。

テナントは計7社で、ダイワコーポは1階の2万6千平方を使用。このうち

半分のスペースをアミューズメント業界向けの共同物流拠点として位置付け、これまで東扇島の倉庫で取り扱っていたクレイゲームの景品類の業務を移管する。

丸運も1階の1万4千平方を使用し、非鉄金属製品を扱う物流センターを稼働させる。

同日の報道陣向け内覧会で、ラサールの永井まり執行役員は「広域をカバーできる立地に加え、充実した設備やシャトルバスの運行といった従業員対策の手厚さが高く評価された」と話した。

また同日には、ラサールの藤井社長、三菱地所の細包憲志執行役常務、NIIPPOの橋本裕司取締役執行役員らによるテープカットが行われた。（吉田英行）